

令和6年 6月 5日

川崎市議会議長 青木功雄様

横浜市在住者

大川緑地（大川緑道公園）岸壁を海釣り施設として整備し開放を求める陳情

陳情の要旨

川崎区大川町に位置する大川緑地（大川緑道公園）の、田辺運河に面する岸壁を、海釣りができる施設に開放し、整備していただきたい。

陳情の理由

- 1 私は、令和5年10月10日に「東扇島東公園岸壁を海釣り施設として開放してほしい」と陳情した者です。その陳情は、残念ながら「令和5年11月21日の常任委員会で、賛成少数不採択となりました。」とのことでした。

以降、その議事録が公開されました。議事録には、以下のような発言があります。港営課担当課長、「安全に釣りができる場所の検討を進めてまいります。」。誘致振興課担当課長、「海に面した緑地を対象に検討」、「船舶の航行の支障とか、また、それに伴う釣り人の危険等を勘案しながら、実際に大川町、大川緑地を含めた緑地でできるかどうか検討してまいります。」。

この議事録によれば、釣りができる場所として、「大川町、大川緑地の検討」が入っています。是非それを実現してほしいと思います。

- 2 議事録には、「京浜運河は、船舶の往来が多く、東公園岸壁を釣り場として開放するのは厳しい。」と指摘されていました。そして、東扇島西公園は、釣りができる公園として開放されています。東扇島西公園は、京浜運河に直角に交差する運河に面しています。京浜運河よりも、船舶の往来が少ないでしょう。

そして、その意味では大川緑地も、東扇島西公園と同じ条件です。大川緑地が面する運河は、田辺運河です。田辺運河は、京浜運河に直角に交差する運河です。大川緑地の岸壁の下には、1 mから2 mのケーソンが張り出しています。この環境は、釣りづらい環境ではありますが。しかし、釣り場がほとんどない現状からすれば、大川緑地は貴重な場所です。

また、議事録によれば、現在使用できない浮島釣り園は、釣り園背後の高さのかさ上げはしても、釣り園としての復活は厳しいようです。だとすると、なおさら大川緑地は貴重な場所です。

- 3 コロナ禍を経て、新型コロナウイルス感染症は5類となり、外出が増えていきます。しかし、円安、材料費アップなどで物価高が進んでいます。海外旅行だけでなく、国内旅行も控える事態です。結局、地域イベントへの参加や、地域でのレクリエーションが盛んになっています。

その中で、釣りをするファミリーは、ますます増えています。20歳から30歳代の夫婦が、2歳から10歳くらいの子連れで釣りをするのは、普通に見られる風景です。また、女性釣り師も増えています。ファミリーだけでなく、一人で来られる女性釣り師です。年代も、若者から高齢者までいます。しかし、釣り場の数が少なすぎます。現在、大川緑地は、ごく少数の方が散歩に訪れるだけになっています。可能性のある場所は、一つでも釣り場として整備し、開放してほしいと思います。大川緑地は、JR鶴見線大川駅下車徒歩3分で、交通の便もあります。駐車場はありませんが、近隣の工場敷地を借地として借りる方法もあると思います。

- 4 川崎市は、東京と横浜、神奈川をつなぐ拠点です。7本ほどの鉄道で、東京と神奈川を結んでいます。そして、工業地帯の側面を残しながら、商業地、住宅地として発展しました。今後も、ファミリー層や単身者が転入したい地域として、魅力を発揮すべき地です。「子育てのしやすい、子どもに優しい地域」としての名を、更に高めることが求められているのではと思います。

そのためには、市内北部を、自然の豊かな商業地、住宅地として拡充するだけでなく、市内南部の発展も求められています。現在、市内南部は昔からの住宅地だけでなく、武蔵小杉や川崎駅前の高層マンション、ラゾーナ川崎プラザを中心とした商業地域として発展しています。さらに、市内南部では、

残された地域の活用が求められているのではと思います。海に面する工業地帯や、多摩川河口地域で活用できる土地があるなら、最大限活用すべきです（多摩川の河口では、シジミやアサリを獲ることもできます）。これからの時代を担う若者たちに、更なる魅力を発信すべきだと思います。

限られた市の予算という側面はあるとは思いますが、是非、大川緑地を一刻も早く釣りのできる公園として整備し、開放していただきたく存じます。